

【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (前期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関などの連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人教育や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	-
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館		
6	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-1-1	生涯学習推進体制の整備		
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進		
		3-1-3	成人教育の推進		
		3-1-4	公民館活動の推進		
		3-1-5	図書館サービスの充実		

2 令和元年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
評価理由(R1年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R1年度末現在の施策の主な課題			
生涯学習推進体制の整備については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した各種講座や事業があるものの、きらめき講座などの主催講座や大学・企業など多様な主体と連携した講座を実施し、生涯学習の機会を提供しました。特に、学習成果を活かすボランティア講座については、令和元年度は31講座と、前年比から11講座増加し、新規講師の増加や複数回講座を開催するなど、生涯学習の参画者が能力を活かせる場を提供することができました。 生涯学習の普及啓発の推進については、各課の講座等の情報を集約した生涯学習情報誌「Next Stage」の情報掲載数において、民間等の情報数が減少したものの、新たに駅に設置しているデジタルサイネージを活用して周知するなど、新たな媒体での情報発信を行いました。 成人教育の推進については、市民の自主的・主体的な学習活動や社会参加を支援するために青年による人権啓発事業等の様々な講座を開催し、毎年度事業見直しを行いました。 公民館活動の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響により、公民館受講者数及び講座回数が減少したものの、現代的課題・地域課題に対する内容のものが増加しました。 図書サービスの充実については、読書推進や図書館利用促進のため、様々な事業を開催するとともに、調べものガイド「バスファインダー」や郷土関係レファレンス事例を充実させ、情報アクセスの利便性の向上を図りました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による休館中も予約資料の貸出を行うなど、サービスの継続に努めました。子どもの読書活動推進については、継続して取り組む必要があるため、「第3次茨木市子ども読書活動推進計画」を策定しました。 以上から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設の臨時休館やイベント等中止の状況を考慮し、施策の方向性としておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	生涯学習施策の推進に向けて、新型コロナウイルス後の新しい生活様式をふまえた、(仮称)茨木市生涯学習推進計画の策定及び推進を行う必要があります。		
		課題②	生涯学習の普及啓発推進のため、ホームページやSNS等を活用した情報発信を積極的に行うほか、新たな手法についても検討する必要があります。		
		課題③	成人教育の推進については、青年による人権啓発事業実行委員の担い手不足解消に取り組むとともに、事業実施方法及び形態を見直す必要があります。		
		課題④	公民館活動の推進に向けて、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みについて、更なる情報提供・共有に努め、32公民館の取組を支援する必要があります。		
		課題⑤	図書館サービスの充実については、新たなサービスを検討するほか、関係機関等との連携や地域情報サイトへの情報提供等、積極的にPRをする必要があります。		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		a	多様化する学習ニーズへの対応や学習成果が活かせる環境を整備するため、(仮称)茨木市生涯学習推進計画の策定に向けて素案を作成しました。また、昨年度から引き続き包括連携協定を締結している市内大学や近隣大学等との連携講座や、企業の連携事業等の実施により生涯学習の機会を提供することができました。特に、学習成果を活かすボランティア講座については、昨年度を上回る31講座を実施し、新規講師の増加や複数回講座を開催するなど、生涯学習の参画者が能力を活かせる場を提供することができました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		大学連携講座受講者数	人	↗	2,082	3,292	1,000(R1)
ボランティア講座数	回	↗	20	31	37(R1)		
天文観覧室(プラネタリウム)利用者数	人	↗	8,429	9,873	14,500(R1)		

1	取組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながると多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		b	生涯学習の普及啓発の推進については、各課の講座等の情報を集約した生涯学習情報誌「Next Stage」の情報掲載数において、民間等の情報数が減少したものの、新たに駅に設置しているデジタルサイネージを活用して周知するなど、新たな媒体での情報発信を行いました。また、市HPやFacebook他、きらめきHPにて、より多くの市民が生涯学習機会の情報を得ることができるよう努めました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		Next Stage情報掲載数	件	↗	573	536	550(R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-3	成人教育の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するため、社会教育関係団体等リーダー研修会や青年による人権啓発事業について、社会の要請を踏まえた講座内容の選定や広報先の再検討等により、効果的な事業実施となるよう努めました。 識字・日本語教室事業については、技能実習生受け入れ拡大に伴い受講希望者が増加しています。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		成人教育関連講習講座の参加者数	人	→	1,023	1,180	1,040(R1)

1	取組	3-1-4	公民館活動の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、市の主催事業が1か月程度中止となったことに伴い、受講者数、講座等開講数は減少しました。新型コロナウイルス感染症による影響がなければ、微増となっていました。 現代的課題・地域課題に向けた取り組みとして、読み聞かせ、地域の歴史など地域の実情に合わせた取り組みを実施したほか、公民館長、主事、運営委員長合同研修会を開催し、講師から事例紹介をしていただくとともに、グループワークを実施し、情報交換を図ることができました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		小学校区公民館講座受講者数	人	↗	2,459	2,450	2,550(R1)
小学校区公民館講座等開講数	講座等	↗	424	400	440(R1)		
講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みによるもの	回	↗	53	72	50(R1)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	吉田 典子
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		b	読書推進や、図書館利用促進のための様々な行事を開催するとともに、パスファインダー(図書館調べものガイド)や郷土に関するレファレンス事例を充実させ、情報アクセスの利便性の向上を図りました。また、各課が実施する事業へのブース出展や図書館での「特集コーナー」の設置を行うなど、図書館サービスのPRや情報提供を行いました。 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、3月から臨時休館しましたが、予約の受付貸出などを継続し、休館中も資料提供に努めました。 子どもの読書活動推進については、継続して読書活動の推進を図るため、「第3次茨木市子ども読書活動推進計画」を策定しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		資料貸出点数	点	↗	3,653,098	3,526,464	3,880,000(R1)
蔵書冊数(書架容量等に応じた適切な蔵書構成)	冊	→	1,269,845	1,245,851	1,250,000(R1)		


4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	梅花女子大学こども教育学科 井元 真澄 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する」という施策については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて一部実施できなかった事業があるが、おおむね数値目標も達成している。よって、総合評価Bは妥当であると考え。 ・大学との連携講座の受講者数が目標値を大幅に上回っている。市内に複数の大学を有していることは強みであるといえる。 ・ボランティア講座が前年度より11講座増加し、31講座が実施されている。数値的には目標値である37に達してはいるが、評価すべきは「生涯学習の参画者が能力を活かせる場を提供できた」ということである。学んだことを活かす機会があることは、さらなる学びを深めるきっかけになり、モチベーションの維持・向上につながると考えられる。 ・今後は新型コロナウイルスの影響を考慮しながらの取り組みが課題となるが、様々な発想にもとづく生涯学習の展開に期待したい。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等を開催するとともに、各自の興味や年齢、体力、技能等に応じて、誰もが気軽に生涯スポーツに親しむことができる環境を整えます。また、本市のスポーツ推進に関する取組の基本となる計画を策定します。 地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークを構築します。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	スポーツ推進課	—
		施策関係課			
6	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進		
		3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成		

2 令和元年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
		評価理由(R1年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	R1年度末現在の施策の主な課題		
2	東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、トップアスリート支援事業を実施し、本市ゆかりのアスリートを支援するとともに、市民にスポーツへの関心を持ってもらえるように、アスリートの紹介なども行いました。また、オリンピックホストタウンとして、ホッケーオーストラリア男子代表の事前キャンプを実施するとともに、新たに水球イタリア男子代表のホストタウンの登録を受けました。 子どもたちが多種目を1日で体験できるキッズスポーツデーをオリックス・バファローズとガンバ大阪の協力のもと実施しました。また、トップアスリート交流事業として、男子サッカー元日本代表選手によるサッカー教室のほか、スポーツに対する苦手意識を早期に解消するため苦手克服教室を実施しました。これらのイベントにより計1,000人以上の子どもにスポーツへ関心を持つきっかけを提供できました。 障害者が施設を利用しやすいように、中条市民プール及び若園運動広場のトイレの洋式化を進めるほか、地域総合型スポーツクラブとスポーツ推進委員協議会との共催による障害者向けのボッチャ教室の開催や、スポーツ指導者の資質向上のため、スポーツ推進委員に対し、初級障がい者スポーツ指導員の資格取得を支援しました。 少子高齢化が進展する中で、子どもから高齢者まで、多様な世代が健康で豊かな人生を送るため、スポーツへの関心が高まっています。東京2020オリンピック・パラリンピックは2021年へ延期となりましたが、引き続きスポーツへの関心が高まっていくものと考えられます。 新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できない事業もあったものの、より多くの人がスポーツを楽しむことができるよう、市民がスポーツに取り組むきっかけ作りや、スポーツをすることができる環境の整備など、施策の方向性に沿った取組がおおむね順調に進められていると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	スポーツに関心を持ち、スポーツに取り組む市民が増えるよう、一層の情報発信に取り組む必要があります。	
			課題②	子どもの好奇心をひきつけるスポーツ体験の取組が必要で。	
			課題③	スポーツへの参加機会を増やすため、取り組みやすい環境の整備に努める必要があります。	
			課題④	スポーツを通じて様々な人が交流し、継続的にスポーツに親しむため、スポーツ関係団体との連携を図る必要があります。	
			課題⑤	多様化する市民のスポーツニーズに対応するため、スポーツ指導者の資質の向上に取り組む必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西 勝二
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、いつでもどこでも気軽に参加できるよう、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市や総合型地域スポーツクラブが実施するスポーツ教室・サークル活動のほか、障害者スポーツに対する取り組みなど、スポーツ推進計画に基づき市民の健康増進・生きがいづくりにつながる生涯スポーツを推進しました。また、東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、トップアスリートの支援事業を実施し、本市ゆかりのアスリートを支援するとともに、市民にスポーツへの関心を持ってもらえるように、アスリートの紹介なども行いました。その他、オリンピックホストタウンとして、ホッケーオーストラリア男子代表チームを招き、交流試合やイベントを実施し、気運の向上を図りました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		各市民体育館稼働率	%	→	86	81	83(R1)
市民プール利用者数(夏期を除く)	人	→	126,442	123,623	130,000(R1)		
市と市内の競技団体の共催によるスポーツ大会参加者数	人	↗	12,419	12,172	14,000(R1)		

1	取組	3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西 勝二
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体や地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークが構築されています。幅広い世代の人々が、生涯を通してスポーツを気軽に楽しめる機会を提供する総合型地域スポーツクラブが活発に活動しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	高齢化の進展に伴い、健康志向が高まっており、スポーツを身近なものとして、多くの市民が気軽に参加できる環境が求められています。こうした中で、スポーツ体験を総合型地域スポーツクラブとスポーツ推進委員協議会が共催で行うなど、スポーツ関係団体による連携を図ることができました。また、新型コロナウイルスの影響により、指導者研修会が中止になり、参加者は減ったものの、スポーツ推進委員に初級障がい者スポーツ指導員の資格取得を支援するなど、スポーツ指導者の資質の向上を図りました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		総合型地域スポーツクラブの会員数	人	↗	1,552	1,405	1,700(R1)
スポーツ指導者講習・研修会参加者数	人	→	197	85	130(R1)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	梅花女子大学こども教育学科 井元 真澄 教授	
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の方向性に沿っておおむね順調に進行しているので、総合評価はBに相当するととらえることができる。ただし、実績値としては、平成30年度の実績値および令和元年度目標値のどちらも下回っている。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できない事業があったためとのことであるが、少し残念な結果である。 ・東京オリンピック・パラリンピックを契機に市民へスポーツへの関心を持ってもらえるよう、アスリートの紹介を行ったり、オリンピックホストタウンにもなるなど、積極的な取組を行っている。 ・さらに、スポーツに対する苦手意識を早期に解消するための「苦手克服教室」を実施や、障害者がスポーツに参加しやすくなるための様々な取組など、「みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する」という施策を具現化する取組は、評価できる。 ・今後も、市民がスポーツに取り組むきっかけ作りや環境整備への更なる取組みに期待したい。 	

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの“楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		
3	対応するSDGs	 			
4	施策の方向性 (前期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
	施策関係課	市民会館跡地活用推進課、歴史文化財課、中央図書館			
6	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり		
		3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
		3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成		
		3-3-4	★歴史遺産の保存・継承		
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成		

2 令和元年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(R1年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R1年度末現在の施策の主な課題			
2	<p>令和元年度も、市民との協働による文化のまちづくりを進めるため、「HUB-IBARAKI ART PROJECT」では市内大学や高校と連携し関連イベントなどを実施、小学生向けの文化芸術講座では文化振興財団と連携し、財団による関連講座やコンサートが開催されるなど事業を推進しました。</p> <p>文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりとして、さまざまなイベントを開催し、文化振興イベントには昨年を上回る16,123人の参加があり、多くの市民が文化芸術に触れることができました。市民会館跡地エリアについては、設計施工業務の募集要項及び要求水準書を作成し事業者募集を行ったところ、3者の応募・提案があり、「市民会館跡地エリア整備事業者候補者選定委員会」において受託候補者を選定しました。</p> <p>未来へ向けた文化芸術の担い手の育成として、小学生、未就学児と保護者を対象とした講座を実施し、昨年を上回る179人の参加がありました。</p> <p>歴史遺産の保存・継承については、キリンタン遺物「聖フランシスコ・ザビエル像」の高精度複製品の製作や、文化財資料館テーマ展「上皇を支えた村々」を開催しました。また、歴史的建造物については、これまでに実施した調査成果をまとめた報告書(神社編)を刊行しました。埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、深見遺跡の速報展を開催しました。大阪北部地震等で破損した史跡郡山宿本陣の保存修理を行いました。</p> <p>郷土への愛着心とブランド形成として、川端康成文学館では川端の生誕120周年を記念し、ハンセン病をテーマにした企画展と関連イベントの講演会を実施し、講演会申込者が2,300人を超えるなど、市内外に川端康成ゆかりの地であることを周知しました。入館者数については、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館などの影響もあり、昨年の10,388人から8,810人に減少しました。また、川端康成青春文学賞の入賞作品集を発行、約6,800部を全国へ配布し「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRにつなげました。</p> <p>以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。</p>		課題①	文化芸術における協働推進の核となる人材の育成には継続した取り組みが必要です。	
			課題②	市民総合センターの老朽化が進んでおり、計画的に予防保全を行う必要があります。新施設の整備にあたっては、整備事業者が自らの提案に則り事業を進めることはもちろん、本市が作成した要求水準書の内容や本市の要望を確実に事業に反映させる必要があります。	
			課題③	若い世代が文化芸術に触れることができる環境のさらなる充実が必要です。	
			課題④	文化財所有者の方に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけていく必要があります。多くの市民に本市の文化財の魅力に触れていただく機会を提供する必要があります。本市にのこる文化財の魅力をひきだす調査・研究を進め、その成果をまとめていく必要があります。	
			課題⑤	川端康成ゆかりのまちであることを市内外に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり				
2	担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる市民との協働や文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度未現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		b	<p>「HUB-IBARAKI ART PROJECT」では、市内大学や高校と連携し、関連イベントなどを実施しました。また小学生向けの文化芸術講座の実施にあたっては文化振興財団と連携し、財団による関連講座やコンサートが開催されました。</p> <p>昨年に引き続き、facebook、TwitterなどのSNSを活用し、文化振興事業を積極的に投稿したことにより、昨年度を上回る好意的な評価を受けるなど、市内外に向けたPRに努めました。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館などの影響から、市立ギャラリーの稼働率は84%に減少しています。</p>				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		市立ギャラリー稼働率	%	→	92	84	100(R1)
SNS記事の好意的な評価数	件	↗	2,641	2,753	3,000(R1)		
提案公募型公益活動支援事業補助採択件数	件	↗	6	8	8(R1)		

1	取組	3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課	中央図書館、市民会館跡地活用推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	市内には文化芸術活動を行うことができる「場」として、文化施設等が数多くあり、音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えています。さらなる文化振興のためには、鑑賞や発表の機会の充実のため、施設整備を行い、鑑賞や実践の機会を設ける必要があります。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	イベント開催等により、気軽に文化芸術に触れる場づくり			
6	R1年度未現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		b	<p>市民会館跡地エリアについては、設計施工業務の募集要項及び要求水準書を作成し事業者募集を行ったところ、3者から応募、提案があり、事業者を決定しました。</p> <p>音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えるため、適宜、文化施設等の修繕等を行い、鑑賞や発表の機会を確保しました。</p> <p>文化振興イベントには昨年を上回る16,123人の参加があり、多くの市民が文化芸術に触れることができました。一方で市立ギャラリーの入場者数は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館などの影響もあり23,517人に減少しています。</p> <p>JR総持寺駅アートプロジェクトと連携した「まちなかアートツアー」や「HUB-IBARAKI ART PROJECT」関連イベントとしてのアートツアーの実施など、芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供しました。</p>				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		市立ギャラリー入場者数	人	→	32,297	23,517	39,000(R1)
文化振興イベント参加者数	人	↗	15,702	16,123	21,000(R1)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	若手芸術家の育成・活動環境の形成			
6	R1年度未現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	市民自らがさまざまな文化芸術活動に取り組み、定期的な公演や大会などに参加しました。また、小学生、未就学児と保護者を対象とした講座の実施や、放課後子ども教室と連携した「こども能楽ワークショップ」を実施するなど、若い世代が芸術文化に触れる場をつくりました。さらに、川端康成文学館俳句コンクールでは、昨年を上回る1,559件の学生応募がありました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	1,463	1,559	1,200(R1)
こども対象の芸術文化講座 参加者数	人	↗	118	179	75(R1)		

1	取組	3-3-4	★歴史遺産の保存・継承				
2	担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	木下 典子
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	貴重な文化財の市への移管促進			
6	R1年度未現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	キリシタン遺物「聖フランシスコ・ザビエル像」の高精度複製品を製作しました。文化財資料館テーマ展では「上皇を支えた村々」を開催しました。歴史的建造物については、これまでに実施した調査成果をまとめた報告書(神社編)を刊行しました。 埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、深見遺跡の速報展を開催しました。 大阪北部地震等で破損した史跡郡山宿本陣の保存修理を行いました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	3,789	2,863	2,500(R2)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

★：重点プラン該当取組

1	取組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成					
2	担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一	
3	関係課							
4	目標 (前期基本計画より)	<p>“茨木らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にす る気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持てるブランドが形成されており、市内外に情報が発信されて います。</p>						
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	内容					
6	R1年度未現 在の取組の 現状	取組の評価	評価理由 (R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)					
		b	<p>川端康成文学館では川端の生誕120周年を記念した企画展と関連イベントとして講演会を 実施し、講演会申込者が2,300人を超えるなど、市内外に川端康成ゆかりの地であることを 周知しました。 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館などの影響もあり、入館者数は昨年 の10,388人から8,810人に減少しました。 また、川端康成青春文学賞の入賞作品集を発行、約6,800部を全国へ配布し「川端康成 が学んだ教育のまち茨木」のPRにつなげました。</p>					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	参考指標	単位	めざす 方向性	実績値		
						H30年度	R1年度	目標値(年度)
			川端康成文学館入場者数	人	↗	10,388	8,810	10,000(R1)
			川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	1,191	1,024	1,800(R1)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	梅花女子大学こども教育学科 井元 真澄 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・本施策については、多面的な取組が実施されており、実績値から判断しても、総合評価Bは妥当であると考えます。 ・特に、「未来へ向けた文化芸術の担い手の育成」については、平成30年度実績値、令和元年度目標値を上回っているだけでなく、小学生、未就学児と保護者を対象とした講座の実施や放課後子ども教室と連携したワークショップの実施など、取組の内容にも工夫が見られる。 ・「歴史遺産の保存・継承」については、キリシタン遺物「聖フランシスコ・ザビエル像」の高精度複製品を製作し、歴史的建造物の調査結果をまとめた報告書(神社編)を刊行するなど、今までの着実な取組が実を結んでいるようである。 ・市民会館跡地エリアについては、茨木市の未来を見据えて設計施工業務の募集要項及び要求水準書を作成し、事業者の選定に至っている。その思いが確実に形になるよう、引き続き取り組んでいく必要がある。 ・「文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する」ということは、一朝一夕にできることではない。今後も継続した取組に期待したい。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる		
3	対応するSDGs	 			
4	施策の方向性 (前期基本計画より)	茨木市の自然、歴史、文化、地域で生み出される特産品など豊富で魅力的な観光資源を最大限に活用し、市内外の人が訪れて「楽しい」と思ってもらえるよう、観光資源をつなぐ取組を推進します。さらに、観光協会と連携し、幅広い年代に応じた効果的な情報発信を行い、わがまちに誇りを持てる、観光をいかしたまちづくりを進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	吉田 誠
		施策主担当課	産業環境部	商工労政課	—
	施策関係課	まち魅力発信課、北部整備推進課、農とみどり推進課			
6	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-4-1	★観光資源の発掘とネットワーク化の推進		
		3-4-2	観光情報の発信を強化		
		3-4-3	★官民協働で観光事業を推進		

2 令和元年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
評価理由(R1年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R1年度末現在の施策の主な課題			
関係団体等と連携し、既存の観光資源の再認識や活用、北部地域を主とした新たな観光資源の創出及びそれらの発信に取り組みました。 観光資源の発掘とネットワーク化については、「いばらき観光ウォーク」や「いばらきフォトサイクリング」などで多くの参加者に、地域の魅力や歴史を体感していただきました。 観光情報の発信については、広報誌や市ホームページ等をはじめ、他機関の広報媒体の活用や、メディアへの情報提供等により、積極的な発信に取り組みました。 官民協働での観光事業の推進については、市と民間団体が共に取り組んでいる「茨木フェスティバル」や「いばらきイルミフェスタ」において、来場者の安全性や企画の充実の観点から、適宜見直しを行って実施しました。また、民間団体主催のイベントを支援し、「茨木音楽祭」「茨木麦音フェスト」といった定着してきた大規模イベントのほか、「IBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL」や「IR-OICフェスタ 大阪餃子まつり」といった新たなイベントが創出され、まちの賑わいにつながりました。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	観光資源のネットワーク化に向けて、関係団体や民間事業者等とも連携し、ターゲットに応じたテーマやコンテンツの設定、情報発信の強化、アクセス向上等に取り組むことが必要です。		
		課題②	ダム湖周辺の観光レクリエーション施設による継続的な賑わい創出に向けて、施設整備内容や管理運営に関する基本計画を、民間事業者の提案を踏まえて策定する必要があります。		
		課題③	より広く効果的な情報発信を行うため、様々な関係団体との連携や多様な広報媒体の積極的な活用が必要です。		
		課題④	観光スポットへの訪問やイベントを契機として、市内での回遊・滞在や周辺店舗での消費を促し、地域経済への波及につなげる手法の検討が必要です。		
		課題⑤			

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-1	★観光資源の発掘とネットワーク化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永 嘉朗
3	関係課	北部整備推進課、まち魅力発信課、農とみどり推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	市の観光資源をいかした多彩な企画が催されています。また、豊かな自然をいかし、各所でもぎ取り園など農業関連イベントが開催され、多くの市民で賑わっています。 新たに整備された観光資源ネットワークが市民に周知され、多様なイベント・企画によって世代性別を問わず訪れた人々で賑わっています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	既存観光資源のネットワーク化と新しい資源の創出			
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	観光協会主催の観光ウォーク等では、市内の様々な歴史や魅力スポットを巡り、そのPRを行いました。阪急観光あるきは、令和2年度からのウォーキングアプリを活用した新たな事業展開に向け、実施体制の見直しと新事業の準備を行いました。 北部地域については、安威川ダム周辺整備における観光レクリエーション施設の提案事業者の募集、「いばきたフォトサイクリング」の実施、「いばきた」の魅力を紹介する広報誌の特集、地元組織によるイモ掘りなどのイベント情報発信等、北部地域の魅力の創出と発信に努めました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		「阪急京都沿線観光あるき」参加者数	人	↗	38	—	80(R2)
「いばらき観光ウォーク」参加者数	人	↗	395	451	600(R1)		

1	取組	3-4-2	観光情報の発信を強化				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永 嘉朗
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (前期基本計画より)	積極的な情報発信により、イベントや企画が多くの人で賑わっています。 観光に訪れようとする市内外の人たちが、容易に必要な情報を取得できる環境が整っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	広報誌や市ホームページ等のほか関係団体の広報媒体の活用、メディアへの情報提供等により、市内の魅力スポットやイベントの情報を広く市内外に発信しました。北部地域の自然や食を中心に現地での楽しみ方を紹介した広報誌の特集、見山の郷の催しやイモ掘り等のイベント情報発信にも取り組みました。 また、観光協会と連携したマップの配付やパンフレット・デジタルサイネージを活用した主要駅でのPRに努め、追手門学院大学の学生による北摂地域の魅力発信の取組にも協力しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		観光情報の発信に取り組んだ媒体の数	種類	↗	16	15	17(R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-3	★官民協働で観光事業を推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	徳永 嘉朗
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関係団体が主体的に加わるかたちで観光の振興が進められ、まちが活性化し、賑わいが創出されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	イベントなど官民協働での観光まちづくり			
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的要因等)				
		b	「茨木フェスティバル」は、平成30年度は台風により途中中止となったが、令和元年度は、旧市民会館跡地の工事の影響による会場等の変更に対応しながら実施しました。また、平成30年度に見直しによって新たに始めた「いばらきイルミフェスタ灯」は参加型企画の充実と協力団体の増加に努めました。 また、民間団体の主催イベントもサポートし、定着してきた大規模イベントのほか、「IBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL」や「大阪餃子まつり」などの新たなイベントが生まれ、年間通して様々な場所で民間アイデアによるイベントが実施され、活気が生まれています。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		主要観光イベントの集客数	人	→	94,367	241,526	253,000(R1)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	梅花女子大学こども教育学科 井元 真澄 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・本施策については、3つの取組がおおむね順調に進行していると判断でき、総合評価Bは妥当であると考えられる。 ・「官民協働で観光事業を推進」については、イベントの実施や支援が中心の取り組みとなっており、主要観光イベントへの集客数は平成30年度を大きく上回っている。 ・「観光資源の発掘とネットワーク化の推進」では、既存の観光資源の再認識や活用、新たな観光資源の創出を行ったということで、これも評価できる取組である。 ・「観光情報の発信を強化」することについては、観光情報の発信に取り組んだ媒体の数は平成30年度の実績値から1減の15となっている。広報誌や市ホームページのほか関係団体の広報媒体の活用、メディアへの情報提供等を行っているということであるが、イベントによる集客以外にも、市内外から観光に訪れる人がさらに増えるようなPRの工夫が求められる。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる		
3	対応するSDGs	17			
4	施策の方向性 (前期基本計画より)	国内外の姉妹都市を中心とした市民レベルの交流を促し、他地域の文化の理解を深めるとともに、さまざまな分野での文化活動の交流を図ります。さらに、市民の異文化理解活動を支援し、国籍を超えた多彩な交流を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
	施策関係課				
6	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-5-1	都市間交流の促進		
		3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備		

2 令和元年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(R1年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R1年度末現在の施策の主な課題		
	<p>都市間交流の促進については、国内姉妹都市の宿泊施設利用補助制度利用者数及び小豆島オーリーブマラソン申込者数は昨年度より若干の減少が見られますが、例年と同程度の利用件数があったこと、国外姉妹都市については、ミネアポリス市からの市民訪問団の受入れを実施していることから、姉妹都市交流が継続されております。</p> <p>地域国際化推進については、「国際交流の集い」参加者数は外国人による日本語スピーチコンテストを開催したことにより、383人の方が参加され、大幅な増加となりました。昨年度と比較し、市民と市内在住外国人の交流が拡大しており、一定の成果が上がっていると言えます。通訳・翻訳ボランティア派遣数については、平成30年度は地震時の相談対応や支援情報の翻訳が多く望まれたことから、83件の利用となっておりますが、地震対応関連を除く利用件数と比較した場合、利用件数は同数となっており、同制度は定着しております。</p> <p>また、通訳・翻訳ボランティア制度の啓発、通訳・翻訳者の質の向上を目的として、大阪府国際交流財団の協力のもと、コミュニティ通訳研修を開催し、55人の方が参加されました。多くの方に参加いただいたことで、在住外国人への支援の向上につながると考えております。</p> <p>以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。</p>		課題①	都市間の交流について、多様な交流機会を提供し、多くの市民に関心を持っていただく必要があります。	
			課題②	在住外国人に対する様々な支援に関して、庁内の関係各課と連携して行う必要があります。	
			課題③		
			課題④		
			課題⑤		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-5-1	都市間交流の促進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関連団体等との連携により、交流が活性化し、さまざまな「つながり」が生まれています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	茨木市国際親善都市協会と連携し、国内外の姉妹・友好都市と子どもの絵画・書の交換事業や市民訪問団の派遣等の交流事業を実施しました。宿泊施設利用補助制度の利用者数および小豆島オーリーブマラソン申込者数については、若干の減少が見られますが、前年度と同レベルであり、姉妹都市等交流事業について一定の認知がされており、継続的な交流がなされています。 また、平成31年3月～4月にかけてミネアポリス市からの市民訪問団を受入れたことで、新たな交流を深めることができました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		宿泊施設利用補助制度利用者数(小豆島町・竹田市)	人	↗	398	390	500(R1)
小豆島オーリーブマラソン申込者数	人	↗	45	42	60(R1)		

1	取組	3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市内に在住する外国人が暮らしやすく、また、外国人訪問客が周遊しやすい環境が整っています。市内に住む人々が国籍を超えて交流しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	R1年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R1年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	通訳(翻訳)ボランティア派遣数が前年度より減少しておりますが、昨年度は地震時の相談対応や支援情報の翻訳による、一時的な要因であり、それを除く比較では、今年度も同じ実績数となっております。制度の周知も進み、安定した利用が見込まれます。 そのほか茨木市国際親善都市協会と連携し、在住外国人に日本語を教えるボランティア活動、市民と在住外国人・留学生との交流イベントの実施、留学生のホームビジットの受入れ等の事業を進めました。交流イベントである「国際交流の集い」では新しい催しを実施することにより、参加者数は大きく増え、異文化交流を深めることができました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H30年度	R1年度	
		国際交流の集い参加者数	人	→	324	383	300(R1)
通訳(翻訳)ボランティア派遣	人	↗	83	34	35(R1)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	梅花女子大学こども教育学科 井元 真澄 教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・本施策については、安定した取り組みをされており、総合評価Bは妥当であると考えます。 ・「都市間交流の促進」は、国内外の姉妹・友好都市との交流事業を実施することにより、継続的な交流が維持されている。また、ミネアポリス市からの市民訪問団を受け入れ、新たな交流を図ることができている。 ・「地域国際化を推進するための環境整備」については、新しい催しを実施することにより「国際交流の集い」の参加者数が大幅に増えている。また、通訳(翻訳)ボランティアについては、制度が周知されており、安定した利用があるとのことである。さらに、通訳・翻訳ボランティア制度の啓発、通訳・翻訳者の質の向上を目的とした研修を実施されており、これは今後の事業の継続・向上につながると考えられる。